

Project	地域協働専攻 国際協働グループ
A10	「やさしい日本語」活用プロジェクト
メンバー	[学 生] 石澤 祐佳/伊藤 夏海/柴田 望美/関川 芽/相馬 むつみ/坂東 菜穂 [担当教員] 高橋 圭介

【背景】

近年、地震や豪雨などによる災害が多発しており、今後南海トラフ巨大地震や首都直下地震などさらなる自然災害の発生が予想される。また、在留外国人が増加していることから「やさしい日本語」を活用することで防災支援に繋がるのではないかと考えた。

【目的】

やさしい日本語に関する文献を講読し、やさしい日本語の知識を深める。その後、非常用食品の作り方や成分を調べ、在日外国人など様々な背景を持つすべての人に向けた非常用食品の紹介映像を作成する。そして『南北海道の文化財』サイトの観光案内板をやさしい日本語を使って書き換える。

【概要】

前期は、市で蓄えている非常食の作り方などを「やさしい日本語」を用いて紹介する映像を作成した。後期は奥野先生(公立はこだて未来大)の指導を受けたのち、函館市の観光案内板の文章が載っている『南北海道の文化財』(<http://donan-museums.jp/>)サイト内の説明文を書き換えた。

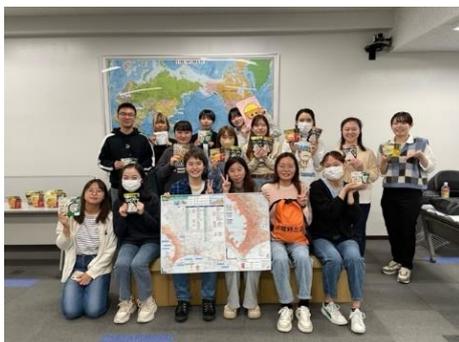
【プロセスと成果】

前期ではやさしい日本語に関連する文献を読み、大事な点をまとめて地プロ内で発表・共有した。新聞やニュース向けのやさしい日本語、公的機関・医療現場で使えるやさしい日本語など、場面ごとにやさしい日本語を使う際に気を付けることが異なる場合もあったが共通点、観光案内板に使える書き換え基準は以下の通りである。

- ・一文を短くし、文の構造を簡単にする
- ・外来語をなるべく使わない
- ・受身形の表現を避け、和暦は西暦に統一する
- ・漢字にはふりがなを振る
- ・語彙は旧日本語能力検定試験出題基準語彙の3級・4級程度
- ・書き換え困難な言葉や専門用語にはポップアップをつける

また非常食の説明文も書き換えた。書き換えた文章を使って動画を作成し、「はこだて防災マルシェ」や「やさしいぼうさい教室」で地域の皆さんや留学生に見てもらいながら一緒に非常食を作った。

後期は、前期で決めた基準に従って観光案内板の書き換えを開始した。過去に書き換えられた観光案内板の見直しも含め、今回は全部で29件の観光案内板を書き換えることができた。一度はこだて未来大学に訪問し、奥野先生や田島さんにサイトの使い方を教えていただいた。また伊藤地プロと意見交換会を行いながら書き換えを進めた。



【やさしいぼうさい教室の集合写真】



【はこだて未来大学へ訪問した時の様子】

【総括と反省・今後の課題】

前期は、防災に関するやさしい日本語の活動をした。各種論文や公的文書、医療現場におけるやさしい日本語の文献講読をし、やさしい日本語に関する知識を深めることができた。また、実際にわかめご飯を作って難しそうな表現をリストアップし、はこだて防災マルシェに向けた準備を進めることができた。

後期は、観光案内板の書き換えを行なった。今回の地プロで書き換えることにした文章は全て書き換えが終わり、サイトに入力が完了している。一つの文章の書き換えに二人で取り組み、書き換えた二つの文章を読み比べ、良い書き換えを採用することでより精度の高い書き換えにすることができた。また二人で書き換えた文章を地プロ全体で「ここは～～という理由で〇〇という書き換えにした」等と報告し、そこでも先生や他のメンバーから助言や意見をもらい更に改良していった。

今回の反省点は、伊藤地プロとのすり合わせの回数が足りず、同じ言葉でも違う説明や書き換えになってしまった箇所が多く存在した点である。すり合わせの回数を増やしたり先に説明や書き換え方法を統一していたりしていればより円滑に書き換え作業を進めることができたはずである。

【地域からの評価】

「はこだて防災マルシェ」では、非常食のわかめご飯の作り方をやさしい日本語に書き換え、動画を制作しそれを見ながら実際に非常食を作る活動をしました。対象は日本語非母語話者、子どもが中心である。アンケートの結果や体験した人の意見から書き換える前の非常食の説明では読める漢字が少ないこと、イラストを間違えて解釈してしまうことがあげられた。そして書き換え後の動画については分からないことはなく、伝わりやすいという意見を頂き肯定的な評価をもらうことができた。一方で漢字圏の日本語非母語話者からは、漢字が減ると意味が推測できないという意見もあった。このため基準の見直しが求められると感じた。

「やさしいぼうさい教室」では、留学生が実際に簡易段ボールベッドなどを体験したりハザードマップを見たりしながら防災について学ぶことができた。やさしい日本語で作成した動画を見せながら留学生自身に非常食を作ってもらった。動画を見ながら作ることで「脱酸素剤」や「スプーン」を正しいタイミングで取り出すこと、チャックの開閉作業がうまくできていた。非常食を作って食べるのが初めてであったが、全員が正しい方法で作ることができ、「おいしい。」という声が多くあがった。

今回のプロジェクト活動に際し、ご協力いただきました函館市女性会議さま、はこだて未来大学の奥野拓先生、北海道教育大学函館校の辰元くるみさん、はこだて未来大学の田島鼓太郎さん、発表を聞いてくださった方々に感謝申し上げます。ありがとうございました。

【年間スケジュール】

■前期

- 4月14日 第1回「顔合わせ」
- 4月21日 第2回「非常食の試食・書き換え」
- 4月28日 第3回「文献講読Ⅰ（柴田・坂東）」
- 5月12日 第4回「文献講読Ⅰ（伊藤・関川）」
- 5月19日 第5回「文献講読Ⅰ（相馬）」
- 5月26日 第6回「文献講読Ⅰ（石澤）」
- 6月2日 第7回「『日本最古のコンクリート電柱』書き換えすり合わせ」
- 6月9日 第8回「文献講読Ⅱ（伊藤・坂東）」
- 6月16日 第9回「文献講読Ⅱ（柴田・関川）」
- 6月23日 第10回「文献講読Ⅱ（石澤・相馬）」
- 6月30日 第11回「伊藤地プロとの意見交換会」
- 7月7日 第12回「非常食の書き換え再検討」
- 7月14日 第13回「中間発表の準備」
- 7月21日 第14回「中間発表に向けた最終調整」
- 7月28日 第15回「中間発表の感想共有・はこだて防災マルシェの準備」

■後期

- 10月19日 第1回「はこだて未来大学への訪問」
- 10月26日 第2回「やさしいぼうさい教室への参加」
- 11月2日 第3回「観光案内板書き換え①」
- 11月9日 第4回「観光案内板の書き換え②」
- 11月16日 第5回「伊藤地プロとの意見交換会」
- 11月30日 第6回「基準・ポップアップ案の確認」
- 12月7日 第7回「これまでの書き換えの全体確認」
- 12月14日 第8回「プレビューシステムへの入力」
- 12月21日 第9回「書き換え案チェック作業」
- 1月4日 第10回「『大船の杉』書き換えすり合わせ」
- 1月11日 第11回「文化財サイトへの入力」
- 1月18日 第12回「これまでの書き換えの確認」
- 1月25日 第13回「伊藤地プロ合同納品プレゼン」
- 2月1日 第14回「全体の振り返り、成果発表会の準備」
- 2月3日 第15回「成果発表会」